



基調講演

東京 大阪 オンライン

森下 平

独立行政法人大学入試センター 審議役
(兼) 試験・研究統括補佐官 (兼) 試験企画部長

テーマ「令和7年度大学入学共通テストについて」

プロフィール 文部科学省において、全国学力・学習状況調査、特別支援教育、高等教育修学支援新制度、大学設置認可など教育制度を中心に担当。福島県教育庁などを経て、2021年から文科省初等中等教育局高校改革推進室長として、探究活動の推進や学びの基礎診断を担当、2023年2月から大学入試センター審議役として大学入学共通テストの作問に関する業務を担当。

メッセージ 予見困難な社会を生きていくための力を育てるとして始まった高大接続改革。学力の3要素の育成を目指す高等学校学習指導要領が昨年度から順次実施され、各高等学校では新しい教育課程に基づく授業が始まっています。大学入学共通テストも高大接続改革の一環として導入されて3年。5回目となる令和7年度試験から、新しい教育課程に基づいて学習した方々が受験するため、大学入学共通テストも新しい学習指導要領に基づくものになります。今回の講演では、大学入学共通テストが導入された経緯を振り返りつつ、大学入試センターがどのような方針で問題を作成しているのかにも触れながら、令和7年度試験からどう変わるのかについて、ご説明します。



特別講演・情報

東京 大阪 オンライン

中山 泰一

電気通信大学 大学院情報理工学研究所 教授

プロフィール 1988年東京大学工学部計数工学科卒業。1993年同大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。博士(工学)。同年より電気通信大学において、計算機システム、並列分散処理、情報教育の研究に従事。情報処理学会において、教育担当理事、事業担当理事を歴任。同学会フェロー。2017年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞受賞。日本学術会議特任連携会員。国立情報学研究所客員教授。

メッセージ 2022年度から実施されている新学習指導要領では、高等学校情報科は、情報の科学的な理解に重点を置き、「情報Ⅰ」(必修科目、2単位)と「情報Ⅱ」(選択科目、2単位)が設けられています。また、日本学術会議は、2016年に「情報学の参照基準」を、2020年に「情報教育課程の設計指針―初等教育から高等教育まで」を公表し、小学校から高等学校、大学へとつながる一貫した情報教育の体系を示しています。情報教育の重要性が増している状況で、教員として生徒を教えるためには、情報学全般についての幅広い知識や技能が求められます。情報科を担当する教員の各校への配置や、研修の重要性についても、お話しさせていただきます。



特別講演・探究

東京 大阪 オンライン

奈須 正裕

上智大学 総合人間科学部教育学科 教授

プロフィール 東京大学大学院教育学研究科修了、博士(教育学)。国立教育研究所教育方法研究室長、立教大学文学部教授等を経て、2005年より現職。中央教育審議会委員。専門は教育心理学、教育方法学。著書に「個別最適な学びと協働的な学び」(東洋館出版社)、「次代の学びを創る知恵とワザ」(ぎょうせい)、「個別最適な学びの足場を組む」(教育開発研究所)など。

メッセージ 探究は、教育課程のすべての領域において可能であり、また望まれてもいます。しかし、まずは探究を必須の要件としている総合的な探究の時間について、創設の経緯、教育課程上の位置付け、学力論、内容編成論、教育方法論などを整理したいと思います。その上で、高校における探究は生徒たちの学びと育ちに何をもたらすのか。さらには、高大接続、大学での学修や生活、卒業後の進路にどのような影響を及ぼすのか。探究の意義について、長期的な視野で考えたいと思います。



英語

東京 大阪 オンライン

安河内 哲也

東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師

プロフィール 中学生から社会人までの英語力を劇的に向上させることで定評がある。著作の累計は350万部超。検定教科書「My Way 論理表現」代表著者。各種教育機関や、試験機関において、講演や監修等の業務を行っている。また、文部科学省や東京都の英語教育関連審議会の委員も歴任。iU情報経営イノベーション専門職大学客員教授。米国政府認定NPO英語評価学会理事。多くの中学・高校の顧問としてActive English Programを実践。

メッセージ 10回目となる夏の教育セミナーは、4年ぶりに会場で開催いたします。東京会場・英語の分科会では、「活動型授業の実践」、「生成AIを使った授業準備や授業の方法」をお伝えします。私がこれまで作成してきた“秘密のプロンプト”を皆さんにシェアする形で進めていきたいと思ひます。ご参加をお待ちしております。



数学

東京 大阪 オンライン

鶴迫 貴司

東山中学・高等学校 教諭

プロフィール 過去にセミナーを受講された多くの先生方から、「授業でそのまま活用できる」「授業をどのように構築すればよいのかがわかった」「資料の内容が偏っていない」などの声が多く定評を頂いている。月刊誌『現代数学(現代数学社)』では、「高校数学の脈絡り」をテーマに高校生や先生方を対象とした「学び」の軸を提唱し、日本数学検定協会SAMEの連載では「実用的な数学(中高の内容)」を紹介するなど、多彩な活動(他校での数学セミナーや大学でのガイダンス並びに高校数学との橋渡しなど)を展開している。教員歴24年目。

メッセージ 今年のセミナーでは、共通テストを活用しつつ、普段の授業でどのような数学的な観点について触れているのかを、具体的な資料に基づき話をすすめていこうと思ひます。「図形と計量」や「ベクトル」をはじめ、それ以外にも、統計リテラシーの教育が本格化する中、授業ではどのような導入(初歩的な話)をしているのかについても話ができればと考えています。本年度も精一杯尽力させて頂きたく存じます。少しでも先生方のお役に立てれば嬉しい限りです。よろしくお祈ひします。



情報

東京 大阪 オンライン

稲垣 俊介

東京都立 神代高等学校 主任教諭

プロフィール 博士(情報科学)。東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。学校現場で15年以上にわたり情報教育を実践し、大学でも情報教育の講師を勤める。情報処理学会にて情報入試委員会、情報科教員・研修委員会、会誌編集委員会専門委員会教育分野の委員、東京都高等学校情報教育研究会にて情報Ⅰ大学入試検討専門委員会の委員長を務める。現在は今年度8月に実施される第16回全国高等学校情報教育研究会全国大会(東京大会)の事務局長として大会の準備を進めている。主な著書は、教科書「情報Ⅰ 図解と実習」(日本文教出版)、「新・教職課程演習第21巻」(協同出版)、「情報モラルの授業」シリーズ(日本標準)等がある。

メッセージ 令和7年度の大学入学共通テストから、「情報Ⅰ」の試験が始まります。これまで、大学入試を情報で受験する高校生は少数でした。しかし、東京大学などの国立大学をはじめ、多くの大学が共通テスト「情報Ⅰ」の導入を発表しました。今後は多くの受験生が情報入試を受けることとなります。しかし、その対策に不安を感じている先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私は、東京都立高校の現場で15年以上にわたり情報を教え続けるとともに、東京都高等学校情報教育研究会情報Ⅰ入試検討専門委員会の委員長、情報処理学会情報入試委員会の委員として、これまで情報入試に深く関わってまいりました。この経験を踏まえて、情報入試を見据えたこれからの実践の提案を通じて、皆さんと一緒に情報入試に向けた議論のスタートができれば幸いです。よろしくお祈ひします。



国語

東京 大阪 オンライン

河口 竜行

和洋国府台女子中学校・高等学校 教諭

プロフィール 桐蔭学園教諭、個人指導塾「河口塾」主宰を経て98年より渋谷教育学園渋谷中高教諭、今年度より現職。産業能率大学経営学部兼任講師。学びの主体である生徒・学生が、自分の頭で考え自分の意志で行動することのできる自立した存在になることを目指した「対話型授業」を実践中。授業その他、学校での活動に、コーチングの考え方や手法をとりいれて活用している。

メッセージ 生徒たちが主体的に学べるようになるための支援をするのが私たち教員の役割、ということに関しては、大学入試が変わっても課程や評価が変わっても、変わることはないと思ひます。むしろ、入試・課程・評価、またそれを生み出す社会そのものが変われば変わるほど、ますますその重要性は増していきます。今回は、生徒の脳がフル回転する国語の対話型授業が何を目指し、そこへどのように近づいていくのかについて、実際のワークを通して参加者の皆様と一緒に考える時間としたいと思ひています。三年間の「動画配信」を経ての久しぶりのリアル開催で、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



探究

東京 大阪 オンライン

法貴 孝哲

清真学園高等学校・中学校 教諭

プロフィール 清真学園高等学校・中学校教諭(数学)。SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校にて数学の探究学習に15年以上携わっている。学校という時間と空間と思考を共有できる場で、自己・他者・教材との対話を通し、学び手がしなやかに成長していける授業づくりを追求する。東京書籍高校数学教科書編集委員、りょうゆう出版「学びとピーニング」編集委員、未来の教室ファシリテーションスキル研修修了(2019年度)。

メッセージ 「探究」というと、「うちの生徒のレベルでは…」「探究は時間がかかるから…」「日常の授業のほうが…」という声はどこからともなく聞こえてきます。しかし、「探究とは」と聞かれば、いつも私は「究極的な『心』の教育です」と答えます。他者を気にせず、自分の「好き」を深掘りしながら、自分で自分をワクワクさせる、そこから始まる「素敵の共創」と「自分世界の広がり」、それこそが探究なのではと考えます。今回は、本校卒業生からの話も含めて、私が探究に携わりながら考えてきたこと、大切にしていることを1つのストーリーとして、皆さんと共有できればと思ひています。よろしくお祈ひいたします。



基調講演

東京 大阪 オンライン

森下 平

独立行政法人大学入試センター 審議役
(兼) 試験・研究統括補佐官 (兼) 試験企画部長

テーマ「令和7年度大学入学共通テストについて」

プロフィール 文部科学省において、全国学力・学習状況調査、特別支援教育、高等教育修学支援新制度、大学設置認可など教育制度を中心に担当。福島県教育庁などを経て、2021年から文科省初等中等教育局高校改革推進室長として、探究活動の推進や学びの基礎診断を担当、2023年2月から大学入試センター審議役として大学入学共通テストの作問に関する業務を担当。

メッセージ 予見困難な社会を生きていくための力を育てるとして始まった高大接続改革。学力の3要素の育成を目指す高等学校学習指導要領が昨年度から順次実施され、各高等学校では新しい教育課程に基づく授業が始まっています。大学入学共通テストも高大接続改革の一環として導入されて3年。5回目となる令和7年度試験から、新しい教育課程に基づいて学習した方々が受験するため、大学入学共通テストも新しい学習指導要領に基づくものになります。今回の講演では、大学入学共通テストが導入された経緯を振り返りつつ、大学入試センターがどのような方針で問題を作成しているのかにも触れながら、令和7年度試験からどう変わるのかについて、ご説明します。



特別講演・情報

東京 大阪 オンライン

登本 洋子

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 准教授

プロフィール 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 准教授。玉川学園高等学校(中3～高3)情報科教諭・情報科教科主任、桐蔭学園中等教育学校/高等学校情報科教諭・探究統括主任を経て現職。東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了、博士(情報科学)。著書に『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』(玉川大学出版部)、教科書「情報I」(日本文教出版)など。

メッセージ 令和4年度から学年進行で「情報I」がスタートしました。令和7年度大学入学共通テストからいよいよ出題科目となります。また、近年の学習環境は、デジタル化の進展と共に大きな変革を遂げていて、情報科だけでなく、各教科を通じて情報活用能力を育成していく必要があります。「情報」を理解することは、これからの社会を生きていく生徒たちに必要不可欠なスキルであるとともに、自分たちの未来を形成していくにあたって重要な要素となります。情報の科学的な知識だけでなく、情報社会を理解し、普段から実践的に活用することの重要性についても解説します。



特別講演・探究

東京 大阪 オンライン

久野 弘幸

中京大学教養教育研究院 教授

プロフィール 名古屋大学教育発達科学研究科修士、博士(教育学)。鳴門教育大学助手、愛知教育大学准教授、名古屋大学准教授を経て、2021年より中京大学教養教育研究院教授。専門分野は、カリキュラム学、教育方法学。統合ヨーロッパのカリキュラム研究、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発を中心に研究。2013年英国・ケンブリッジ大学客員研究員、2017年ドイツ・ハイデルベルク教育大学客員フェロー。

メッセージ 「探究」は、2008/09年版学習指導要領で、総合的な学習の時間のキーワードとして取り上げられ、2017/18年の改訂では、全ての教科・領域が探究であると捉えられるようになりました。探究は「手順」でなく、「学びの原則」です。とすれば、何かを考え、身につけていく学びの過程には、探究の何かが埋め込まれているはずで、「生涯探究社会」とは、喜びや充実感を感じながら学び続けるという意味であり、高大接続もその通過点です。生徒も私たち教師も、同じ探究社会を歩む仲間だと思っています。



英語

東京 大阪 オンライン

武藤 一也

東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師

プロフィール 英語に悩める生徒から、英語が得意な生徒まで、生徒のやる気に火をつける分かりやすい授業に定評がある。テキストや原稿の作成もこなし、英語の学習は「正しく。楽しく。」をモットーに日々奮闘中！「共通テスト英語リスニングドリル(東進ブックス)」をはじめ、「イチから鍛える英語シリーズ(学研プラス)」、学校採用品の「Reading Flash(桐原書店)」など著書多数。TOEIC試験4技能(LRSW合計)1390点満点。2019年にカナダのトロントにてCambridge CELTAを最上位のPass GradeAで合格。

メッセージ 大阪会場・英語の分科会では、「生徒の考えを上手に引き出す授業術」についてお伝えします。全国模試の作成や問題集の執筆を通して培ってきた経験と、カナダへのCambridge CELTA留学で学んだ教え方を日本風にアレンジしました。明日から授業で使えるテクニック満載でお送りします。ご参加をお待ちしております。



数学

東京 大阪 オンライン

酒井 淳平

立命館宇治中学校・高等学校 教諭

プロフィール 立命館宇治中学校・高等学校数学科教諭(キャリア教育部長)。立命館宇治中・高で文科省の指定を受けながらキャリア教育部の立ち上げや探究カリキュラムの開発・実践を行い、その知見を数学の授業にも反映させようと試行錯誤しながら様々な取り組みを進めている。啓林館(新編)教科書執筆。文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」協力者。著書に「高等学校新学習指導要領 数学の授業づくり(明治図書)」「探究的な学びデザイン 高等学校 総合的な探究の時間から教科横断まで(明治図書)」。

メッセージ 資質・能力ベースの新学習指導要領、思考力や算数・数学の学習過程を重視した共通テストの実施に加えて、AIの急速な進化は私たちに授業のあり方を改めて問いかけているように感じます。確かに答えを出すだけの学びなら、AIにはかなわないかもしれませんが、しかし、授業だからこそできることはいっぱいあり、授業があるからこそ、生徒が自分の頭で考える力を育てることも可能になると思います。共通テストを題材として、数学的に考える力を育てる授業のあり方を参加者のみなさんと一緒に考えたいと思います。



情報

東京 大阪 オンライン

神藤 健朗

世田谷学園中学校・高等学校 教諭

プロフィール 世田谷学園中学校・高等学校情報科教諭。1999年～民間企業2社(システムエンジニア、IT技術教育インストラクタ)、2005年～東京都市大学附属中学校・高等学校情報科教諭、2018年～ドルトン東京学園情報科教諭を経て2021年より現職。2012年より芝浦工業大学非常勤講師を兼務。「情報I」検定教科書執筆(日本文教出版)。

メッセージ 2022年度入学者から「情報I」がスタートし、2025年度入試から「情報I」が共通テストに入ります。「情報I」2年目の今年、これまでの授業実践(思考力・判断力・表現力中心の学習活動)を活かしつつ、知識・技能の習得にもつながるように試行錯誤しています。1年間の授業の流れと合わせて、どの学校でも取り入れることのできる、工夫次第で深い学びにつながるような授業実践をお話しさせていただきます。



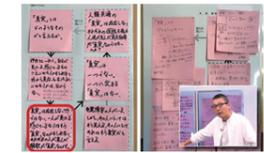
国語

東京 大阪 オンライン

齋藤 祐

中央大学杉並高等学校 教諭

プロフィール 都留文科大学非常勤講師。三省堂高等学校国語教科書編集委員。NHKラジオ高校講座「言語文化」監修講師。



メッセージ 大学入学共通テストの標準化、1人1台ICT端末の導入、ChatGPTを始めとする生成AIの登場と、学校と国語科をめぐる環境は激変を遂げつつあります。ただ、ここで問われるべきは、いま一度、私たちが培ってきた、教科としての方法論を見つめ直すことにあります。今回、久方ぶりとなる対面セミナーでは、定番教材である芥川龍之介「羅生門」を、ICTを駆使して、AIで時間をかけて「読む」という実践を報告します。生徒の成長を促すために、いかに生徒を読む気にさせるか、考える気にさせるかを、一緒に考えていきましょう。



探究

東京 大阪 オンライン

郡司 直孝

桐蔭学園中等教育学校 教諭

プロフィール 北海道教育大学卒業。同大学院教育学研究科修士。修士(教育学)。北海道公立中学校教諭、国立大学法人北海道教育大学附属函館中学校教諭を経て、2023年度より現職(情報科)。主に情報活用能力の育成や総合的な学習(探究)の時間のカリキュラム構築に関わる。一般社団法人日本教育情報化振興会「情報活用能力の授業力育成事業(コミュニケーション力育成事業)」委員、NHK学校放送番組「ツクランカー」番組委員等を務める。著書に『成功する1人1台端末の授業づくり:先進事例に学ぶ効果的なICTの利活用法(明治図書)』(共著)がある。

メッセージ 探究的な学びにおいて展開される「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の中で、とくに「課題の設定」は、探究の肝と言えるのではないかと考えます。同時に(だからこそ)、取り組むことがもっとも難しいものであるとも感じています。このたびの分科会では、この「課題の設定」に焦点を当て、「自己の在り方や生き方と一体的で不可分な課題」を少しずつ形作っていくための試行錯誤にどのように取り組み、どのように支えていくのかを皆様と一緒に考えていきます。併せて、カリキュラムや組織づくりに関するアイデアの一つとして共有できればと思います。

